

すずか民報

第162号
2022年1月

日本共産党
鈴鹿市議会
市議会報告

青少年の森の「森」を5haも伐採

公園の自然こわしてサッカースタジアム計画

「森の木を切らないで」と市民から反対の声高まる
自然豊かな「県営鈴鹿青春少年の森」の中に、5haもの森の樹木を伐採して観客5千人収容のサッカースタジアムを造る計画が、2021年8月に発表されました。これを聞いた公園利用者・市民は「なぜこの場所に、公園をこわして造るのか？」と

驚きました。

9月には公園を利用するグループや市民有志が「鈴鹿青少年の森を愛する会」を結成し、「森の木を切らないで」と計画の白紙撤回を求める署名運動をスタート、8千人余の署名とともに三重県と鈴鹿市に要請を行っています。

2年前から準備、利用者・市民には知らせず

このサッカースタジアム構想は、Jリーグを目指すサッカーチーム・ポイントゲッターズの運営会社・㈱アンリミテッド社が、2019年3月から鈴鹿市と三重県に働きかけ、水面下で協議を進め2020年10月には、「県が市に公園使用を許可し、市がア社に建設から運営まで全て行わせる」との仕組みが作られ、広大な土地の使用料は無料とされました。

一方この間、公園利用者や市民には何も知らされず、市議会に協議や報告もありません。

「重要生態系地域」の森を、なぜ切るのか

2021年9月議会・12月

議会で、日本共産党の石田秀三議員はサッカースタジアム計画について質問しました。①市発行の「鈴鹿市の自然」の中でも「重要生態系地域」に選定された自然環境の公園を、なぜ伐採するのか。②市民や公園利用者はこの計画を何も知らされていない。③ア社の事業計画・資金計画などを把握しているのか。ア社の事業遂行に支障が生じた場合、「原状に回復」する責任は鈴鹿市が負うのではないのか。

事業計画も資金計画も説明できず、市の責任も不明確



末松市長は答弁で、①ア社に対して土地の改変、森林伐採を最小限に抑えるよう求めたい。②市が主体となった説明会の予定はない。③ア社からきちんとした書面での資金計画ではなく、事業費は8億円などと聞いた。具体的な検討はこれからである。と鈴鹿市の責任については、何も語りませんでした。

サッカー場建設計画は、市内部での協議、市と県との手続きは進んでいます。が、肝心の資金計画や運営計画の見直しなどは未だに明らかにされず、先行きは不透明です。

国保16億円も積み上がった黒字・基金

年間保険料の5ヶ月分ものため込み

鈴鹿市の国民健康保険は、2015年度の保険料大幅引き上げ以来6年間つづけて黒字、積み上げた支払準備基金との合計は16億円(2020年度決算)に達しました。これは年間の保険

末松市長は原点に立ち戻って考え直せ

石田議員は市民の声を代わって末松市長に「私たちはサッカー場に反対するのはなぜの素晴らしい公園の森をこわして、『ここ』に造ろうとするのか。」と問いかけ、原点に立ち戻って考え直すことを求めました。



青少年の森を愛する会 中間報告集会 2021/12/12

給与年収400万円4人世帯	
協会けんぽ	196,200円
国民健康保険	441,300円



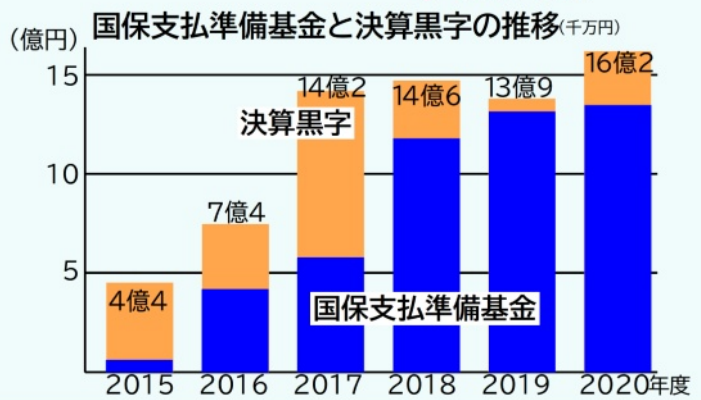
料収入の5ヶ月分に相当するほどの金額です。21年度もさらに黒字が上積みになる見通しです。

9月議会で高橋さつき議員は、同じ収入と家族構成の世帯を協会けんぽと比べて2倍以上も保険料が高い国保の実態を示し、払えないほど高い保険料の引き下げを求めました。

基金使えない理由は破たんしている

健康福祉部の答弁は、「毎年県に納付する事業費納付金が大きく変動する可能性がある」「基金は中期的な視点から運用し安定的な運営に活かしたい」というものでした。

高橋議員は、県納付金は50億円から40億円台下がって「大きく変動」せず安定している。6年間も基金は使うことなく「中期的な視点」から見ても着実に増加している。これまで5年間、県からの借入金毎年9千400万円返してきたが、その間も国保会計は十分「安定



均等割なくして子どもの「均等割」なくして
国保料が高い理由の一つが、子どもにもかかる「均等割」です。先の事例で子ども2人にかかる均等割は8万4000円にもなります。国も全国からの要望を受けて22年度から「未就学児の均等割を半額にする」と決めました。さらに鈴鹿市が国よりも改善を進めて、18歳以下の子どもも全ての均等割をゼロにするには6千850万円あれば可能です。高橋議員は、過大な基金の一部を活用して実現することを提案しました。

「ふるさと納税」 鈴鹿市は1億5千万円の減収

寄付金収入額より 市民税控除額が上回る

いわゆる「ふるさと納税」

で、鈴鹿市に全国各地から2020年度は2億円の寄付があり、これから「返礼品」など事業の推進費約1億円の費用を引いた残り1億円が、市財政に入りました。

しかし、鈴鹿市民も全国各地に5908人が5億4千万円を「ふるさと納税」、この寄付に対して市民税を控除する仕組みで、納税額が約2億5千万円減りました。その結果、市外から入る



寄付金から市外に出て行く税収を差し引き、1億5千万円が鈴鹿市財政の「損失」になったのです。

形を変えた「金持ち減税」、
財政にもプラスにならず

この減収分は地方交付税に算入されるので丸々損失にはなりません。一方、低所得や非課税の人には何のメリット

もありません。これは形を変えた「金持ち減税」だとも言え、さらに格差を広げるものです。

鈴鹿市の「ふるさと納税」の推移(単位・万円)

年度	市への寄付金A	事業の推進費B	差し引き(A-B)=C	市民税控除額D	財政の損益C-D
2017	22,133	13,733	8,400	12,309	▲3,090
2018	13,765	7,616	6,149	17,313	▲11,164
2019	17,449	9,100	8,349	24,127	▲15,778
2020	20,558	10,670	9,888	25,910	▲16,022

注:「市民税控除額」には、他の寄付金も含まれる

「生理の貧困」をなくす取組みを トイレに生理用品の 設置を当たり前に



12月議会が高橋さつき議員は、小中学校のトイレへの

生理用品の設置について質問しました。経済的な理由だけでなく、DVやネグレクト、羞恥心や知識不足などの理由で生理用品を購入できない「生理の貧困」が大きな問題になっています。

市教委からは、7月にモデル的に小中各3校で設置したが子どもたちも教職員か

らも好意的な意見があった、保健室で渡すよりも多くの需要があるとの結果が報告されました。

高橋議員は、トイレにトイレペーパーがあるように、生理用品も当たり前に設置

することを求めました。市教委は配布場所・配布方法について、教職員だけでなく児童生徒の意見も取り入れて、適切な方法を検討した

いと答えました。また地域振興部長からは、市役所や

ジェンダー平等の実現に向けた性教育の取組みを

高橋議員は、生理をタブー視する風潮や偏見による不安や苦しみなどの問題を、女子だけでなく男子も共に

学び、生理のタブーをなくし、つらい思いを共有し理解し合えるような性教育についても質問しました。

市教委は、性教育は学校だけでなく家庭とも連携し、

学校給食費の無償化めざして

9月議会で石田議員は、学校給食費について質問しました。いま給食費の無償化をすすめる自治体が、全国的に増えています。石田議員は、「子どもの貧困」対策の面から、また「義務教育は無償」原則の面から、給食費の負担への公的支援を検討すべきだと提案しました。

すでに実質無償化が、児童生徒の14%になっている

市教委が担当する「就学援助」制度は、「生活保護基準の1.5倍」と他市を上回る基準で認定しているため、利用者数は年々増えています。

石田議員は「鈴鹿市の極端に悪い生活保護率(0.53%、四日市市の半分以下)を、就学援助制度に依拠して進めている。市内全中学校で、産婦人科医による出前授業も実施している。今後も性別に関係なく偏見をなくす取り組みを進める、との答弁がありました。

現行基準は維持して行きたいが、拡充は難しい

広田教育長は答弁で「就学援助制度については現在、高い基準と認めていただいている認定基準を維持して行きたい」と述べましたが、拡充については「財政負担の観点から難しい状況」と述べるに留まりました。

石田議員の話

鈴鹿市の生活保護率が低いのは、生活困窮家庭が少ないからではなく、自動車の保有を認めない、親族の扶養照会を執拗に行うなど



石田 秀三 市議

の、行政の姿勢が原因です。しかし就学援助では「世帯の所得だけ」を要件としているので、自動車を手放さなくても良い、扶養照会や日常生活に干渉されない、ので利用が多いのです。

それでも就学援助は学校生活のみの支援であり、家庭の生活全般での実態はなお厳しいものがあります。給食費の無償化は、市教委だけでなく行政全体での子育て支援策として進めてほしいと思います。

就学援助制度・鈴鹿市と四日市市の比較(2020年度各市の実績)

	鈴鹿市		四日市市	
児童生徒数	16007人		23407人	
要保護認定者	49人	0.31%	231人	0.98%
準要保護認定者	2134人	13.33%	2596人	11.05%
就学援助合計	2178人	13.64%	2827人	12.03%
(生活保護率)		0.53%		1.25%
生活保護基準例	約170万円		約178万円	
就学援助基準例	約249万円	(1.5倍)	約241万円	(1.3倍)

*生活保護基準例は、モデル世帯・30代夫婦+小学生の3人家族